

遠藤健郎

The Retrospective Exhibition of Takeo Endoh

絵画展

一戦後は終わった

2005.1.29 〈土〉▶ 2.27 〈日〉

開館時間: 10:00~18:00(金曜日は20:00まで、ただし2月11日(金・祝)を除く)

*入館受付は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

入館料: 一般200(160)円

大学・高校生150(120)円/中・小学生100(80)円

* ()内は団体30名以上

*同時開催の「深沢幸雄銅版画展」もご覧いただけます

主催: 千葉市美術館



千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

TEL:043-221-2311(代)

<http://www.city.chiba.jp/art>

遠藤健郎絵画展 ―戦後は終わった―

遠藤健郎(1914-)は、常に身近な風俗を題材として活写し、個性的な活躍を続けてきた千葉市在住の画家です。千葉市美術館では、戦争直後の人々の姿を描いた「瓦礫の街から」のシリーズ、そして「戦後は終わった」と名づけられた昭和30年代頃の日本の風俗を滑稽に描き出したシリーズなどを中心に所蔵していますが、その作品は時に辛辣で深刻であり、時に愛情に満ち、ユーモラスであり、戦後から現在までの日本社会の様子を、独自の視点からいきいきと伝えてくれます。

大正の自由な空気の中に生まれながら、戦争の渦中に青年・壮年時代の一時期をささげなければならなかったこの作家の体験が、作品の精神に反映されているのは明らかでしょう。少年時代に震災、大正から昭和への変動期を過ごし、大戦直前に東京美術学校油絵科の学生、戦中の美術書出版の仕事、美術教師、徴兵そして敗戦、千葉市役所での勤務といった経験を通して培われた鋭い観察力によって、様々な立場の人々を描き出していったのです。

残された多くのスケッチは、のちに作家自身の巧みな文章と共にいくつかの画文集にまとめられ、また版画や油絵に描きおこされています。自伝的な出版物もあり、その人生と作品への興味はつきません。絵と文章を通してその活躍を振り返り、同時に戦後から今という時代の姿に目を向けることは、今の私たちにとっても必要なことのように思います。千葉市美術館の所蔵作品を中心に、近作も含め主要作品200点ほどによって構成する大回顧展です。

《市役所物語》より《市会常任委員会の大激論》 リトグラフ、紙 原画は昭和30年代(1955-64)

【会期中の催し】

- ◆ 講演会
「千葉に暮らす 千葉を描く」
日時:2月11日(金・祝)14:00~
講師:遠藤健郎氏
場所:11階講堂
- ◆ 作家によるギャラリートーク
毎週土曜日14:00~
- ◆ ギャラリートーク
毎週水曜日15:00~

次回展予告:

3月5日~3月25日
第36回千葉市民美術展覧会
4月5日~5月15日
義経展
―源氏・平氏・奥州藤原氏の至宝―



《巷の女たち》より《キャバレー》
リトグラフ、紙 昭和51年(1976)



《瓦礫の街から》より《母と子》 コンテ、紙 昭和21年(1946)頃



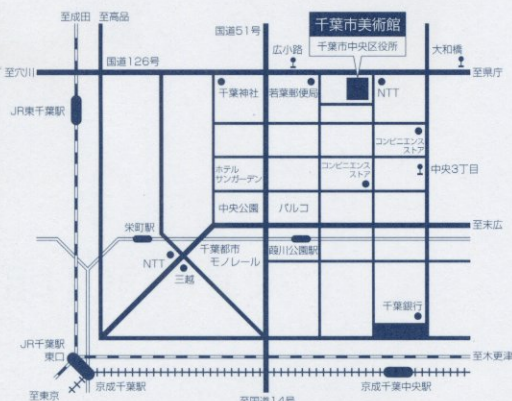
《戦後は終わった》より《入学の手続き》
水彩・ペン、紙 昭和30年代(1955-64)

◎JR千葉駅東口より徒歩約15分/千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩5分/バスのりば7より大学病院行、南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩2分/JR千葉駅へは東京駅地下ホームから総武線快速千葉方面行で約42分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ貝塚ICをおり、国道51号を千葉市街方面へ約3km 広小路交差点近く

◎地下に駐車場有り



千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

TEL:043-221-2311(代)

<http://www.city.chiba.jp/art>